
○国際交流員のコラム○

●勝手な思い込み●

鹿児島県国際交流員 金 孝真（韓国出身）

2月28日、かごしま国際交流センターで、鹿児島に新しく移り住んだ外国人の皆さんの歓迎パーティー「ハーティーパーティー」が開かれました。

かごしま国際交流センターは、京セラの稲盛和夫名誉会長からいただいた寄付金により整備され、昨年4月にオープンした、鹿児島の国際交流拠点です。

その日は、韓国、シンガポール、オーストラリア、ベトナム、マレーシア、タヒチの6カ国が出展し、それぞれの国の魅力を新入外国人をはじめとする県民の方々に発信しました。私は、鹿児島市国際交流員と2人で、韓国文化や事情等について紹介するブースを設置し、参加者との交流を図りました。

ブースには、韓国の伝統工芸品やパンフレットを展示し、投壺(トゥホ)・チェギ・コンギという伝統遊び体験や、名前をハングルで書く体験等を行いました。

ちなみに、投壺(トゥホ)は、離れた場所から矢を投げて壺の中に入れる遊びで、古くは貴族や両班(ヤンバン、高麗時代・朝鮮王朝時代の支配階級の身分)たちが行いましたが、現代では一般的に旧正月等に行われます。

こういった韓国で古くから親しまれている遊びを、県民の方々と一緒に楽しむことができ、嬉しかった反面、申し訳ない気持ちにもなりました。

その日は、アメリカ、インド、ベトナム、マレーシア、インドネシア、パキスタン等、色々な国から来ている在住外国人に参加していただき、楽しい交流の時間を過ごしました。楽しい時間を過ごしているうちにふと気づきました。それは、「私、東南アジアの人々に対して無意識の偏見を持ってたんだな」ということです。これまで、日々の暮らしの中で目にした不法入国や不法滞在についてのニュースの印象が強かったせいか、東南アジアの一部の人々にニュースで見聞きしたイメージを漠然と持っていました。しかし、出会った彼らは、留学生・研究者等の在留資格を取得し、様々な分野で鹿児島との人的ネットワークを構築する、重要な役割を果たされておりました。



今回、草の根国際交流の必要性に改めて気づきました。国際交流員として鹿児島に来ている私ですが、まだまだ未熟な部分が多いです。これからは、「鹿児島に移り住み、地域に溶

け込み，日本や鹿児島文化について学んでいる」という共通点を持つ，色々な国の方とのつながりをもっと大切に，異文化への理解を深めていきたいと思ひます！